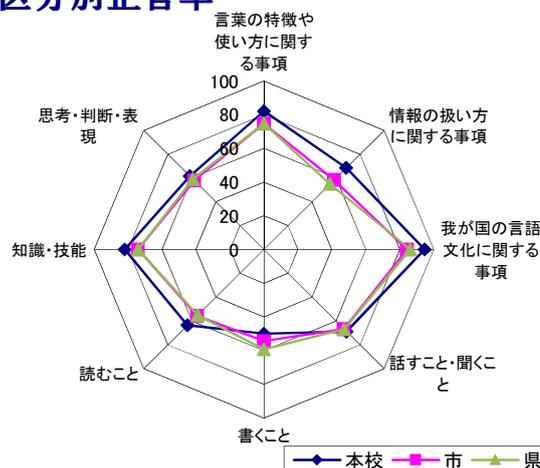


# 宇都宮市立今泉小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	82.1	74.7	74.8
	情報の扱いに関する事項	68.5	58.4	55.0
	我が国の言語文化に関する事項	94.6	84.3	86.1
	話すこと・聞くこと	68.8	66.7	66.9
	書くこと	50.0	54.3	59.3
	読むこと	63.7	55.6	55.2
観点	知識・技能	82.0	74.1	74.0
	思考・判断・表現	61.6	58.0	59.1



## ★指導の工夫と改善

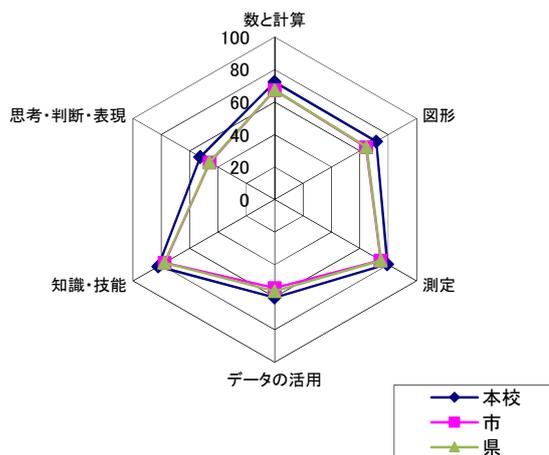
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<p>平均正答率は、市の平均を7.4ポイント、県の平均を7.3ポイント上回っている。</p> <p>○第3学年に配当されている漢字を正しく読む設問は、全て正答率が9割を超えており、県の平均正答率を上回っている。</p> <p>○主語・述語の関係を問う設問は、県の平均を上回っており、正答率も高いことから、十分理解できている。</p> <p>●第3学年に配当されている漢字を正しく書く設問やローマ字を正しく読む設問は、全て県の平均を上回っているものの、正答率が6割程度の設問もあり、十分に定着していないといえる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ローマ字の書き方について、bとdなど似ている文字の違いや拗音の表記など、児童が苦手とする部分にポイントを絞って、繰り返し指導することで定着を図っていく。また、他教科との関連を図り、様々な場面で積極的にローマ字を活用できるよう、適宜指導していく。</li> <li>・既習漢字は、今後も家庭学習等に継続して取り組むよう支援していく。</li> </ul>
情報の扱いに関する事項	<p>平均正答率は、市の平均を10.1ポイント、県の平均を13.5ポイント上回っている。</p> <p>○国語辞典の使い方は、市と県の平均正答率を上回っており、十分理解できている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語辞典の使い方について、日常的に使用することを意識して継続的に指導していく。使いやすい環境にするよう、教室に国語辞典を置き、身近に調べられる環境作りを工夫する。</li> <li>・家庭学習で辞書を使った課題に取り組むように支援していく。</li> </ul>
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均を10.3ポイント、県の平均を8.5ポイント上回っている。</p> <p>○正答率は、9割を超えており、漢字のへんやつくりについて、よく理解できている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習漢字と同様に、漢字のへんやつくり、ことわざや故事成語等言語に関する学習についても、家庭学習に継続して取り組むよう支援していく。</li> </ul>
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市の平均を2.1ポイント、県の平均を1.9ポイント上回っている。</p> <p>○話し手が伝えたいことの中心や話し方の工夫を捉える設問は、県の平均正答率を上回っている。</p> <p>●話し合いの発言を基に自分の考えをまとめたり、理由を挙げながら自分の考えを話したりする設問は、県の平均を下回っている。設問形式が記述式であるため、無回答率も高い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の学習にペア学習やグループ学習を積極的に取り入れ、自分の考えや理由を伝える機会を増やしていく。</li> <li>・大切なことを落とさず聞くために、話を聞く時のポイントや話し方について繰り返し指導していく。</li> </ul>
書くこと	<p>平均正答率は、市の平均を4.3ポイント下回り、県の平均を9.3ポイント下回っている。</p> <p>●指定された長さで文章を書く設問では、4割から5割ほどの正答率であり、個人差が見られる。また、無回答の児童も2割ほどいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の中で、自分の考えを書く際、話し合う活動も取り入れ、自分の考えを深めた上で書くなど、十分な分量で書くことに慣れていけるようにする。また、その際に根拠を示して書く習慣を身に付けるよう指導する。</li> <li>・他教科との関連を図りながら、個人やグループによる新聞づくりや学習のまとめづくりなどで、集めた様々な情報を比較分類して、目的や条件に合わせて文章を書く機会を増やし、文章の構成・段落に注意して文章を書けるような指導をしていく。</li> </ul>
読むこと	<p>平均正答率は、市の平均を8.1ポイント、県の平均を8.5ポイント上回っている。</p> <p>○物語の登場人物の気持ち、説明文の内容を捉える設問は、県の平均正答率を上回っている。</p> <p>●段落の内容を捉え前半と後半に分ける設問は、県の平均を下回っており、正答率は12.0%でとても低いことから、十分に理解できていないといえる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・好きなジャンルの本だけでなく、日頃から様々なジャンルの本に親しむことができるよう、声掛けをしていく。ブックトークなどを行い、説明文を読むことに興味をもち、まとめたり段落を意識してそれぞれの段落の内容を捉え、段落同士がどのように結び付いているのかを考えながら読めるよう、指導の場面を増やしていく。</li> </ul>

# 宇都宮市立今泉小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	72.3	67.3	67.4
	図形	71.5	64.5	64.7
	測定	79.4	74.7	74.9
	データの活用	60.3	54.4	56.4
観点	知識・技能	82.1	77.6	77.8
	思考・判断・表現	52.6	45.8	46.1



## ★指導の工夫と改善

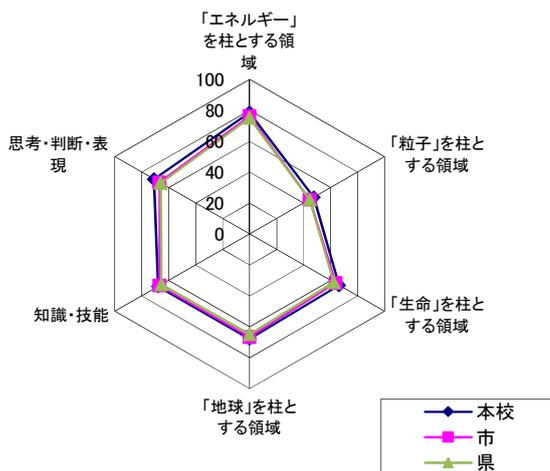
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均を5.0ポイント、県の平均を4.9ポイント上回っている。</p> <p>○大きな数や小数の表し方や性質についての問題は、市や県の正答率を上回っており、数の概念について十分理解できていることが伺える。</p> <p>●同分母の真分数＋真分数の計算問題の校内平均正答率は93.5ポイントと高い水準で正答できているものの、市や県の平均を下回っており、やや課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分数の加法、減法については、立式した際に分子が1である分数(単位分数)がいくつ増減しているか確認することで、分数における数量の変化について理解を深めさせる。</li> <li>・基礎的な四則計算についてはほぼ身に付いていると考えられるが、一つの設問に回答するのに時間がかかっているため、計算処理能力を高めるために、授業の中で、解答時間を設定して計算問題に取り組む活動を設けていく。</li> </ul>
図形	<p>平均正答率は、市の平均を7.0ポイント、県の平均を6.8ポイント上回っている。</p> <p>○円や球の半径、直径を答える問題や図形を作図する問題など全ての設問において市や県の平均正答率を上回っている。</p> <p>●円の性質を考え、コンパスを使って正三角形が作図できる理由を説明する問題では、市や県の平均正答率を約4ポイント上回っているものの、校内平均正答率は4割を切っており、図形の性質について説明する力にやや課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習した知識を活用し問題演習を行うだけでなく、作図の手順や図形の性質について説明し合う活動を多く設定し、学習内容のより一層の定着を図る。</li> <li>・身の回りの具体物の中から三角形や円、球など見いだす活動を設定し、それぞれの図形がもつ性質が日常生活の中でどのように役立てられているか考えさせる。学習内容と自分の生活のつながりに気付かせることで、必要感をもって学習に取り組むことができるようにする。</li> </ul>
測定	<p>平均正答率は、市の平均を4.7ポイント、県の平均を4.5ポイント上回っている。</p> <p>○時間が経過する前の時刻を求めることができている。また、身近な物の重さについて、およその見当を付けることができている。</p> <p>●地図から道のりを読み取って、その和を求める設問では、市の平均を0.1ポイント、県の平均を1.0ポイント下回っており、無回答の割合も市や県に比べて高く、課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誤回答が多かったのが直線距離の長さを選択しているものだったので、道のりとは道に沿って測った長さであることを再確認する。</li> <li>・日常生活の具体的な場面と授業で学ぶ知識が結び付くような指導を工夫していく。</li> </ul>
データの活用	<p>平均正答率は、市の平均を5.9ポイント、県の平均を3.9ポイント上回っている。</p> <p>○棒グラフを読み取り、指定された棒グラフを正しく選択することができている。</p> <p>●棒グラフで1目盛りの数が異なることに注意しながら正しい棒グラフを選択する設問では、市の平均を10.7ポイント、県の平均を6.8ポイント上回っているが、正答率は3割程度と課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・算数だけでなく、社会科や理科等で表やグラフを読み取る学習を取り入れ、資料の見方をその都度確認していく。また、読み取った内容からどのようなことが考えられるのか、多角的・多面的に読み取る力の向上を図る。</li> </ul>

# 宇都宮市立今泉小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	78.5	76.2	75.1
	「粒子」を柱とする領域	47.5	44.5	44.5
	「生命」を柱とする領域	66.3	63.6	62.3
	「地球」を柱とする領域	67.8	66.6	64.9
観点	知識・技能	67.8	66.8	65.4
	思考・判断・表現	70.9	66.8	65.9



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>平均正答率は市の平均を2.3ポイント、県の平均を3.4ポイント上回っている。</p> <p>○「送風機を風が強い順に並び替える」問題と「ゴールに車を止めるために必要だと推測されるゴムをのばす長さを選ぶ」問題においては、県平均を10ポイント以上上回っている。</p> <p>●「鏡で反射した光の進み方を選ぶ」問題では、1.8ポイント、「実験の結果として適切な記録を選ぶ」問題では、5.9ポイント県の平均を下回っている。「電気を通す性質があるものの名称を答える」問題では、正答率は県平均を上回っているものの、無回答率が高い。</p>	<p>・実験をした後に実験の記録を言葉でまとめることを繰り返し行い、実験と結果を結び付けさせるようにする。</p> <p>・問題文をよく読むことで、質問に合う答えを取捨選択する力を身に付けさせる。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>平均正答率は市と県の平均を3.0ポイント上回っている。</p> <p>○ほぼすべての内容において正答率が、県や市の平均より高い。特に「物と重さ」について、姿勢を変えて測った体重がどのようになるかを選びその理由を答える設問の正答率は、県の平均を5.3ポイント上回っている。</p> <p>●実験の結果を基に記述できるかどうかを見る設問では、正答率は県や市の平均より5.3ポイント高いが、無回答率が2.5ポイント上回っており、記述式の問題を苦手とする児童が多いといえる。</p>	<p>・授業の中で実験のまとめをする際などには、キーワードなどを基に自分の力で記述できるよう、繰り返し指導する。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>平均正答率は市の平均を2.7ポイント、県の平均を4ポイント上回っている。</p> <p>○植物の体のつくりの共通点を指摘できるかどうかを見る問題の正答率は9割超え、県や市の平均を大きく上回っている。</p> <p>●ホウセンカのようなすを観察した順に並べ替えたものを選ぶ問題では、県や市の平均は上回っているものの、正答率が17.4%で理解が不十分であるといえる。虫眼鏡の正しい使い方を学ぶ問題も、県や市の平均は上回っているが、正答率が28.3%と低いことから、課題が残る。</p>	<p>・植物の観察は、教科書で観察の仕方を丁寧に指導し、観察のポイントや記録の仕方について十分に理解を図るようにする。また、観察をした後には、正しく観察できているか全体で確認したり、友達の観察記録と比較したりして、正しい知識を身に付けられるよう、指導を工夫する。</p> <p>・観察に必要な道具は、教科書の写真やデジタル教科書の動画等を活用し、正しい使い方を身に付けられるように指導するとともに、全児童が十分に道具に触れることができる時間を確保するように努める。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>平均正答率は市の平均を1.2ポイント、県の平均を2.9ポイント上回っている。</p> <p>○温度計の使い方を身に付けているかどうかを見る問題の正答率は83.1%で、県や市の平均を大きく上回っている。</p> <p>●太陽の位置の変化を方位で理解しているかどうかを見る問題の正答率は39.1%と低く、県や市の平均も下回っている。また、無回答率も県や市に比べて高かったことから、理解が不十分であるといえる。</p>	<p>・太陽が東から昇って西に沈むという言葉の理解だけでなく、実験や観察を通して理解が深まるよう丁寧に指導する。また、観察をして分かったことを、自分の言葉でまとめたりキーワードを使ってまとめたりする活動を積極的に取り入れ、知識を取得できるようにする。また、これらの活動を繰り返し行うことで、自分の考えを伝えたり表現したりすることに消極的な児童が、自信をもてるようにしていく。</p>

## 宇都宮市立今泉小学校 第4学年 児童質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている」の肯定割合は96.8%、「家で、学校の授業の復習をしている」の肯定割合は65.6%で肯定的に答えた児童の割合が県の割合を上回った。また、「学校の宿題は自分のためになっている」の肯定割合も94.7%で市・県の割合を上回った。宿題や復習をやる必要性を意識しながら家庭学習に取り組むことができるため、これからも意義を話す場面を設けるようにし、家庭学習の意欲を高めていきたい。

○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」「授業では、自分の考えを発表する機会を与えられている」の肯定割合が県の平均を上回った。普段の授業から積極的に授業に参加できている児童が多いため、これからも自分の考えを伝えることの大切さを話していきたい。また、「クラスは発言しやすい雰囲気である」と答えた児童の肯定割合も県の平均を上回っているが、「いいえ」と答えた児童も12%以上おり、全員が発表できる場面を作れるような授業形態の工夫をしていく。

○「次の教科などの学習は、将来のために大切だと思いますか」の質問に対しての肯定割合が、国語・社会・算数は96%を超えたが、理科・総合の割合は90%程度であり、3教科に比べて低い結果となった。「次の教科などの学習は好きですか」の質問では、理科・総合を好きであると答えている児童が多くいるため、学びの継続や広がり授業の中で話していく機会を設けていく。

●「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」「家で勉強する時に、だいたい同じ時刻に取り組むようにしている」の肯定割合が県の平均を下回った。同じ時刻に取り組めていないと答えた児童が40%以上であり、家庭学習の習慣化を図るためにも、開始時刻と学習時間を決めて取り組めるように指導をしていく。

●「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている」「新聞を読んでいる」の肯定割合が県の平均を下回った。「地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある」と答えた児童は約90%と高い割合となっているため、関心のあることを詳しく知るためのツールである情報メディアの上手な利用方法について考える時間を設定するようしていく。

●「家でのきまりを守ってる」の質問に対して「はい」と答えた児童の割合が39.8%で市の平均を10%ほど下回った。「どちらかといえば、はい」と答えた児童は多くいるため、約束を守ることの大切さを学校と家庭で連携して指導していく。